

能登半島地震 医療支援活動を終えて

病院長 鈴木勇三



右から 鈴木病院長
佐藤薬剤師
古川看護副部長

救急医療の経験を活かし、被災地支援をしたいという思いがずっとあり、今回JMATとして能登へ行くことができました。能登半島は高齢者が多いですが人口は少ないため、医療支援は比較的手厚くされていると思います。しかし3ヶ月経ってもがれきのまま、復興の見通しが無い地域もありました。

支援の中で大切にされたことは、被災者の方と目線の高さを合わせ、お話を聞くことでした。北陸の人々は我慢強く、相手を思いやる印象。自分より他の人を心配する言葉を聞きました。地元の医療従事者は、使命感や責任感で必死に働いている。でも彼らも傷ついていて心のケアが必要だと感じました。

東京に戻りビル群の夜景を眺めホッとしたのと同時に、身のすくむような恐怖を覚えました。こんな人口密集の中、震災が起こったらもう助けようもないだろう。それでも考えなくてはならない。

今回の経験を活かし藤沢市医師会で災害時の医療体制を検討していきます。発生時はDMATやJMATの支援を受けることとなりますが、その後どのように地域医療を立て直していくのか。

皆さんに伝えたいのは、自分の身を守る備えをしておくこと。特にトイレが使えなくなった時のことを考えてほしい。また、薬は2週間分くらい予備があるようにしておいた方が良いので、主治医に相談してください。私は湘南の人々はきっと助け合えると思っています。一緒に考えて備えていきましょう。



現在も手付かずの状況

2月25日（日）に災害多職種研修会を開催しました

「マグニチュード7.9 そのときあなたはどうする？～藤沢市南部で災害が起こったら～」をテーマに行政・企業・医療団体にご協力いただき、災害時の取組みを共有しました。

当院のホームページで研修会の動画・資料をご覧ください。



藤沢市防災政策課からの発表



企画者の若木美佐医師



医療法人篠原湘南クリニック クローバーホスピタル

基本理念

地域に密着した
“入院のできる在宅医療”
“医療のある介護の実践”

ホームページ



病院憲章

1. 伝統と歴史を認識し、患者様・地域・職員から選ばれる病院をめざします
2. 一人ひとりが親身になって、すべての患者様を支援します
3. 常に在宅復帰の可能性を追求し、最新・良質なチーム医療・介護を提供します

Follow
us!
instagram

